

地方分権改革シンポジウムについて（開催報告）

資料 9

○ 地方分権改革シンポジウムは、「地方分権改革の総括と展望」(平成26年6月有識者会議取りまとめ)において、国民に改革の成果を実感してもらう情報発信の一環と位置づけられ、平成26年以降、ほぼ毎年度開催。

令和5年度のシンポジウム：3月14日(木) 12時～14時30分 オンラインにて開催

～住民参加で実現しよう！あなたに役立つ地方分権～

【1】自見 内閣府特命担当大臣による開会のご挨拶

【2】ご講演：地方分権における住民参加への期待とその意義

市川 晃 住友林業㈱代表取締役会長
地方分権改革有識者会議座長

【3】ご講演：地方分権改革の今日的意義～住民自治の視点から～

金崎 健太郎 武庫川女子大学経営学部教授

【4】住民の方々の地方分権改革の成果に対する声

【5】地方分権改革に対する若い世代の声

【6】提案募集方式における成果事例の紹介



地方分権改革シンポジウムとは
国民の皆様は、地方分権改革における取組や成果を実感してもらうための情報発信の一環として、平成26年から実施しています。

定員 1,200名 / 先着順(要事前申込)
応募締切：令和6年3月12日(火) 17時
下記URLまたは右記QRコードよりお申し込みください。
申込フォームURL：<https://forms.gle/dVR1BFttIdiaGoMEA>
※ご登録メールアドレスに、後日ZoomのURLをお送りします。

参加無料

お問い合わせ先
担当：(株)アカンバにてテクノロジーズ 近藤
電話：090-3603-1013
メール：shikamarishi@webinar.net

申込用QRコード

プログラム

【1】主催者挨拶	【3】講演
内閣府特命担当大臣からご挨拶いたします。	地方分権改革の今日的意義～住民自治の視点から～ 地方分権がこれからの社会にもたらす効果と、今後の改革のあり方についてお話しいたします。
 自見 はなこ 内閣府特命担当大臣 (沖縄及び北方対策、消費者及び食品安全、地方創生、アイヌ施策)、国庫博覧会担当	 金崎 健太郎 武庫川女子大学 経営学部教授
【2】講演 地方分権における住民参加への期待とその意義 地方分権改革が、住民参加により更に進展することへの期待を、これまでの経験をもとにお話しいたします。	【4】住民の方々の地方分権改革の成果に対する声 これまでの地方分権改革の成果に対する地域住民の方々の生の声を紹介します。
 市川 晃 住友林業㈱ 代表取締役会長 地方分権改革有識者会議座長	【5】地方分権改革に対する若い世代の声 大学生に、地方分権改革で自治体から寄せられた施策や改革に対する意見等をインタビューします。 (聞き手) 内閣府 地方分権改革推進室 在津謙作 参事官
【6】提案募集方式における成果事例の紹介 提案募集方式の活用が、どのように住民サービス向上へと繋がったのか、取材映像により紹介します。	

主催 内閣府

住民等の方々に出演頂いたプログラム（その1）

【プログラム 4】 住民の方々の地方分権改革の成果に対する声

地域住民等の方々に出演頂き、これまでの地方分権改革の成果に対する生の声を紹介。

★放課後児童クラブに関する基準の見直し
（H29延岡市ほか）

【宮崎県延岡市】

☆童夢館児童クラブ館長様（当日出演）

☆旭児童クラブ主任様（録画出演）

★ファミリーサポートセンター事業
の実施要件の明確化（H29高知県）

【埼玉県杉戸町（録画出演）】

☆ファミリーサポートセンターの
利用者の方など2名の住民様

★保育所等における居室面積基準の
緩和特例措置の延長（R3大阪市）

【大阪市（録画出演）】

☆西六保育園園長様

☆本町敬愛保育園園長様

【プログラム 5】 地方分権改革に対する若い世代の声 全員当日出演

現役大学生に出演頂き、提案募集で寄せられた提案やその対応に対する意見等を紹介。

【大正大学】

地域創生学部の4年生
（男子1名、女子1名）

【武庫川女子大学】

経営学部の4年生
（女子2名）

【西南学院大学】

法学部の3年生
（男子1名、女子1名）

住民等の方々に出演頂いたプログラム（その2）

【プログラム 4】「住民の方々の地方分権改革の成果に対する声」で頂いた主な声

- ①（放課後児童クラブ職員の）基準緩和により、子育てや介護等に応じた勤務の柔軟化ができた。
- ②基準緩和により、休暇が取り易くなって職員間の雰囲気も良くなり、長く働いてもらえる職場になった。
- ③地方分権改革は、実は私たちの身近なところで進められているのだ、と改めて思った。
- ④ファミリーサポートセンター事業の要件明確化はとても良かった。子育て中のお母さんの需要に応える結果だ。
- ⑤（保育所の面積基準緩和の特例措置延長は）多くの利用希望者のニーズに応えるもので大変有難く、地域の多くのお子さまの受け入れにつながっている。

【プログラム 5】「地方分権改革に対する若い世代の声」で頂いた主な声

- ①申請手続等の簡素化を図るならば、そもそも役所に行く必要があるのか（オンライン申請）等も検討すべきでは。
- ②地方分権改革は、法令等で決まっている当たり前を、現場の違和感を変えていく仕組みと理解できた。
- ③文化・習慣等は地域毎に異なるので、国は最低限の方針のみ示し、もっと地方に権限委任すべきでは。
- ④国は基準に従わせるという視点ではなく、地域が基準を達成する手助けをするという視点を持つことが重要。
- ⑤地方分権を進めていくためには、もっと一般の方々にその取組を知ってもらう機会を増やすことが大切。
- ⑥行政サービスは対象者をはっきり線引きする故、その狭間で困る人が出る。もっと柔軟さが必要。

令和5年度のシンポジウムに係るデータと分析など

1.参加者について

- オンライン開催では過去最高の339名が参加（昨年度の238名より101名増加）。
- シンポジウム出演者の関係者（延岡市、埼玉県杉戸町、大阪市、及び大学）
を通じた積極的な広報により参加者数が大きく伸びたものと思料。
- 公務員が占める割合は65%で、昨年度（66%）から変化無し。

2.アンケートの主な結果（有効回答数72件）

【肯定的なご意見】

- 参加者の約89%が地方分権改革について理解でき、成果を実感できた回答。
- 住民や大学生の生の声が聞けたことにより理解が深まった等とする回答多数（同様6件）。
- 今後もオンライン開催が適当とする回答が約78%（会場開催を望む回答は約1%）。

【否定的なご意見】

- 12:00開始だと昼休憩と被るため、開始時間の再考を求める声の一部あり（同様3件）。
- 紹介事例の分野（こども、保育）や出演者に運営者が多い等の偏りがあるとの声あり。
（同様2件）